

施設評価の2回目アンケートにご協力頂き、ありがとうございました。

多くのご意見を頂き、多数の方が今の状態を継続して頂ければと回答頂き、園の方針にご理解を頂けているという嬉しさと、そこに甘んじる事なく子ども達に寄り添った保育をしていかななくてはと、気を引き締める良い機会となり感謝しております。出して頂いたご意見を皆様にもご紹介し、検討した上で、本園の改善点や思いも伝えられたらと思います。



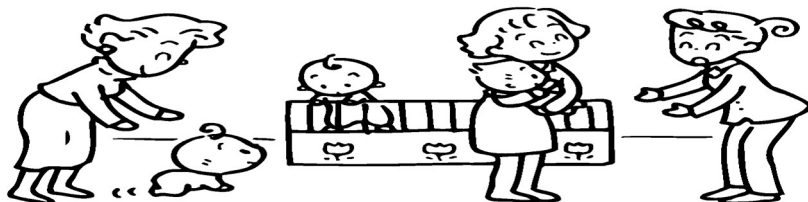
まずは、防犯についてです。

- ・ こうしてほしいという案はありませんが、木製の扉も外の門も子どもが自分で開閉出来てしまいます。
- ・ 侵入に対しては難しいですね。災害等が起きた時の為に出やすい事や見通しがきくのも大事だと思うので…。
- ・ 完全に回避するよりも、保育者や保護者、地域の大人で温かく見守る意識と危険があるという事を子ども自身が知る事も、この世の中で生きていく術になると思います。
- ・ 柵の高さがもう少し高くあればいいのかなぁと思います。
- ・ 扉を開けっぱなしで入っていく方がいるので、みんなで必ず閉めるという意識を持った方がいいと思います。
- ・ 出入口が1つだけなので、防犯面でも安全性は高いと思います。
- ・ 毎回、お迎えカードを提示して、それを確認してから入室してもらう。
- ・ 子ども達に対して、防犯絵本の読み聞かせ等がいいと思います。
- ・ 近隣の不審者情報があった場合にはメールでお知らせを頂いたり、園庭遊びの際には、周囲に怪しい動きをしている人がいないかチェックして頂ければ安心です。
- ・ 保護者のお迎え時、遠くからでも判断できる色のストラップ名札を首から下げる等。
- ・ セキュリティーカードの導入や顔写真付きの保護者カードの提示



以上のご意見を頂きました。ありがとうございました。検討した結果をお知らせ致します。

- ・ 絵本等の導入は、交通ルールや災害においては用いていますが、防犯においても取り入れていきます。
- ・ 今現在も行っておりますが、役所や警察署より不審者情報があった際はメール配信をさせて頂いたり、園庭遊びの際は保育者がフェンス近くにいたり、近づいてくる人がいた場合には子どもだけにしない様にしてありますが、今後も徹底していきます。
- ・ フェンスの高さにおいては今までも検討してきましたが、壁ではなくフェンスだとしても子ども達の目線からは圧迫感があり檻ではないという思いと、研修等にも参加させて頂き、高いからといって防犯にはならない事を知り、今に至っています。ただ、飛び出しや日中保育者という時は触らない鍵も、登園時やお迎えの際に開け閉めをしている姿が気になっておりました。道路に面する扉においては、子どもが触れない様扉だけ高く出来ないかなど検討するべきと考え、業者さんに問い合わせをし対応して参ります。(すでに連絡はしております。)
- ・ お迎えカードやセキュリティーカードも以前検討致しましたが、工事の間は休園をしなければならなかったり、現在も引渡しカードを常に持ち歩いて頂いており、誰が入ってきたのかわかるガラスの扉なので、今のリモコン式になりました。今後も、色を変えた引渡しカードを年度毎お渡しし、その色のカードを持って来た方だけに引き渡す事、扉の前で少しお待ちいただく事もあるかもしれませんが、保護者にあたる方がガラス扉の前に立ったら鍵を解除する等を徹底していく事でご了承頂けたらと思います。



次に、知育や感性を伸ばすような教育についてです。

- ・ うさぎ・ぱんだ組のクラスにおいては、話す・聞く・書くといった教育があるといいと思います。
- ・ 身近な保育者や友達との関係が育つ事で、社会性を身に着けたりする時期なので、今のままでいいと思います。
- ・ 絵本の読み聞かせ・毎日の散歩・ブロックあそび・友達との関わり、その全てが『知育・感性を伸ばしている』と言えると思います。
- ・ 叩く・振るだけで音が鳴るタンバリンや鈴、カスタネットを使った簡単な音楽あそび。
- ・ 机の上ではなく床で行う絵具あそび。
- ・ 英語に触れる機会があったり、英語耳が育つ教育。(音楽や動画をみでの英語力)
- ・ モンテッソーリ教育。
- ・ 指先を使ったあそび。



以上のご意見を頂きました。ありがとうございました。

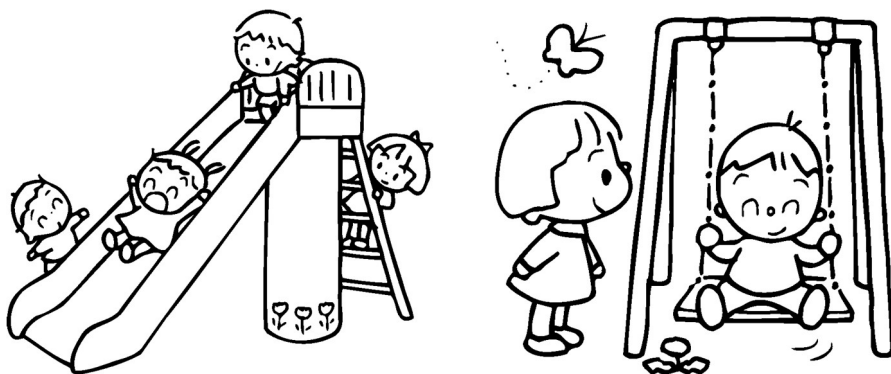
『三つ子の魂百まで』という言葉が昔からある様に、3歳までに身に着けた事は一生ものとよく言われます。今の世の中、話せる英語を学ぶのは必修とも言われています。これからどんどん、選択をして身に付けていた事があたりまえになっていく世の中で、早い段階から学ばせたいという気持ちもよくわかります。実際、取り入れている園もありますし、そういう園を選ばれて通わせていたり、保護者の方が自宅に取り入れている話を聞いたりしても、子ども達が楽しんでいる姿が伝わってきていい事だなと感じております。ただその反面、今回のアンケートにも書かれていた方もいらっしゃいましたが、『個人差があるから、子どもに合ったものを自分で取り入れたい』『家庭的な保育の雰囲気がよくて通わせています』『英語や体操など特定の分野では、向き不向きもあって楽しめない子もいるのでは…』等の意見もありました。

本園は保育所保育指針を基に保育を行っております。10年毎に見直しが行われ、2018年の改訂の際には、3歳未満児の保育が充実化され、特に非認知能力(意欲・忍耐力・協調性・自制心・リーダーシップや社会性・難解な課題にぶつかった際の粘り強さ・やり抜く力・創造性・好奇心・自己肯定感等)が取り出されるようになりました。私たちも、こういった目には見えない力というのは、とっても大事なものだと考えています。身に付けていくには、どういった経験が必要なのかを日々試行錯誤しながら、子どもにとっての最善の利益を考え、月齢に合った保育をさせて頂いております。実際、モンテッソーリ教育とうたっていないくても、遊びや生活の中で取り入れているいたり、それに興味を示してやるかやらないかは子ども達に選択権があります。モンテッソーリ教育でいう“おしごと”もそれが出来る出来ないではなく、“やってみたい”“最後まで頑張り出来たという達成感を味わいたい”などの目では見えない意欲が大事なんだと思っています。ブロック遊び1つを取っても、園には色々な物があります。0.1歳児の弱い力でもくっつける事が出来る物や360°回転出来るような部品がある物だったり・・・でも、遊び方は1通りではありません。大人は、この遊びはこういうやり方と捉えがちですが、子ども達は違います。だからこそ、散歩に出掛け色々な自然物に触れたり、感触の違う素材に触れ製作を楽しんだり、出来る出来ないは関係なく体験する事が大切をモットーにしています。やってみたいが選択肢の広がりにつながったり、思い通りにいかない経験が壁にぶつかった時の原動力になったり、みんなの前で名前を言う経験が発言力になったりと、将来につながる力の土台作りを生活や遊びを通してお手伝いさせて頂いていると思っています。どんなに教材がよくても、子どもが興味を待たなければ次にはつながりません。興味を持ってもらう為に、どのような導入が必要で、どんな工夫があればいいのかは私たち保育者の役割です。手作りのたいこやタンバリン、すずなども子ども達のお気に入りです。リズムあそびや発表会前の導入で使う事も多いです。1・2歳児で取り入れているシールノートなどを生活の中で取り入れたり、ポピンやコインの紐通しをはじめ遊びや製作などを通して、月齢に合わせて指先を使う経験もしております。1つひとつは些細な事かもしれませんが、積み重ねていく事で将来につながる原動力になると考えています。

散歩に出掛けると、子ども達が近所の方に挨拶をしたり、ごみ収集車の方にお礼を言う姿はよく見るのですが、先日の夕方、オムツ替えの為にうさぎぐみの子どもが3名トイレに来ました。その時、一緒に来た保育者は何も言葉を発していなかったのですが、掃除をしていた保育者に自ら『ありがとう』と声を掛けてくれたんです。ぱんだぐみの子ども達はよく言ってくれますが、うさぎぐみの子ども達が保育者のしている事を見てお礼を言うってすごい事だなと、とても嬉しくなりました。大きくなるにつれ、恥ずかしさを覚えたりあたりまえになっていく中で、素直に言える思いやりや感謝という思いが育っている事に、私たちも教えられた気分でした。

必要でない事は何一つありません。英語も体操も音楽もこれから生きていく子ども達にとって必要な事になると思います。ただ、0～2歳児を預かっている本園では、それらをやりたい・やってみたいと思える意欲や友達との接し方、自分の気持ちの折り合いの付け方、発言力、諦めない勇気、出来たという達成感などを、生活や遊びを通じて経験していく場でありたいと思っています。そして、年齢到達で転園をする際に子ども達が困らない様に、2歳児クラスは、トイレトレーニング・パジャマの着替え・お箸・困った時に大人に話し掛けられるように当番活動を通して身に付けられる様、努めて参ります。

今後も、保育園にご理解ご協力を頂けたら嬉しいです。  
よろしくお願ひ致します。



長田ちびっこ保育園